



Human Metabolome Technologies, Inc.

2026年6月期 中間決算説明資料

2026年2月

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 (6090)

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

目次

1. 2026年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. キャピタル・アロケーション方針に
基づく対応について

参考資料

目次

1. 2026年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. キャピタル・アロケーション方針に
基づく対応について

参考資料

バイオものづくり支援と機能性素材開発支援は堅調に推移するも、ライフサイエンス研究支援が低迷。設備投資と人件費増による費用増により利益も減少。

(単位：百万円)
(表中の△は減少・百万円未満切捨て)

	2025年6月期 第2四半期	2026年6月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	684	659	△ 25	△3.7%
営業利益	104	46	△ 57	△55.2%
経常利益	94	47	△ 47	△50.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	93	43	△ 49	△52.9%
1株当たり中間純利益 (円)	15.75	7.74	△ 8.01	-

2026年6月期Q2 サービス別売上結果



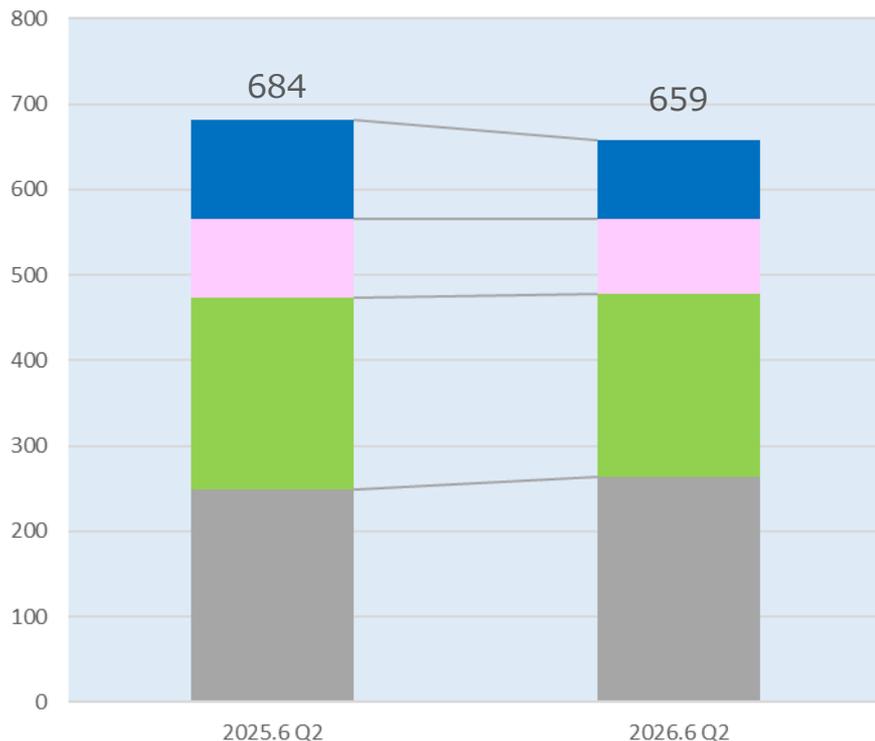
(単位：百万円) (表中の△は減少・百万円未満切捨て)

	2025年6月期 第2四半期	2026年6月期 第2四半期	増減額	増減率	主要因
ライフサイエンス 研究支援サービス (LSS)	527	440	△87	△16.6%	製薬企業の大型案件が下期にずれ込む。 食品企業の大型案件は今期は端境期で減少。 米国事業は引き続き低迷が続く。
機能性素材 開発支援サービス (FDS)	156	167	11	7.1%	CRO経由での臨床試験が大きく減少したものの、製薬企業と中堅食品メーカーからの臨床試験などが増加。
バイオものづくり 支援サービス (BMS)	0	51	51	-	好調な新規受注に伴う
合計	684	659	△25	△3.7%	

アカデミア分野は大型案件の売上などにより増加。
 製薬分野と食品分野はサービス間での変動はあるものの、全体としては減少。
 化学その他の分野は、CRO経由売上の減少により減少。
 欧米事業は、当四半期の米国政府閉鎖の影響などもあり低迷がつづく。

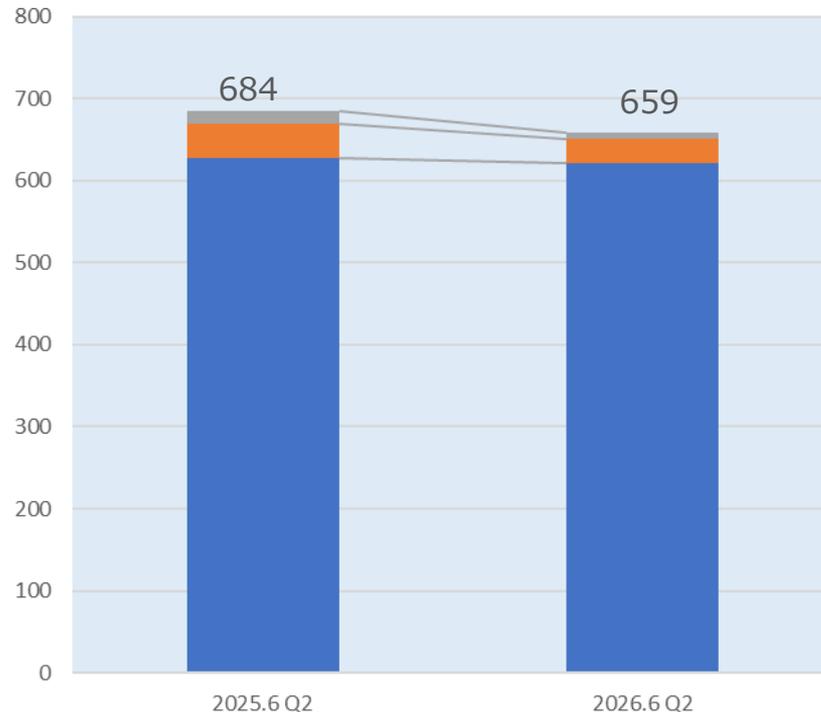
分野別売上

(百万円)



地域別売上

(百万円)

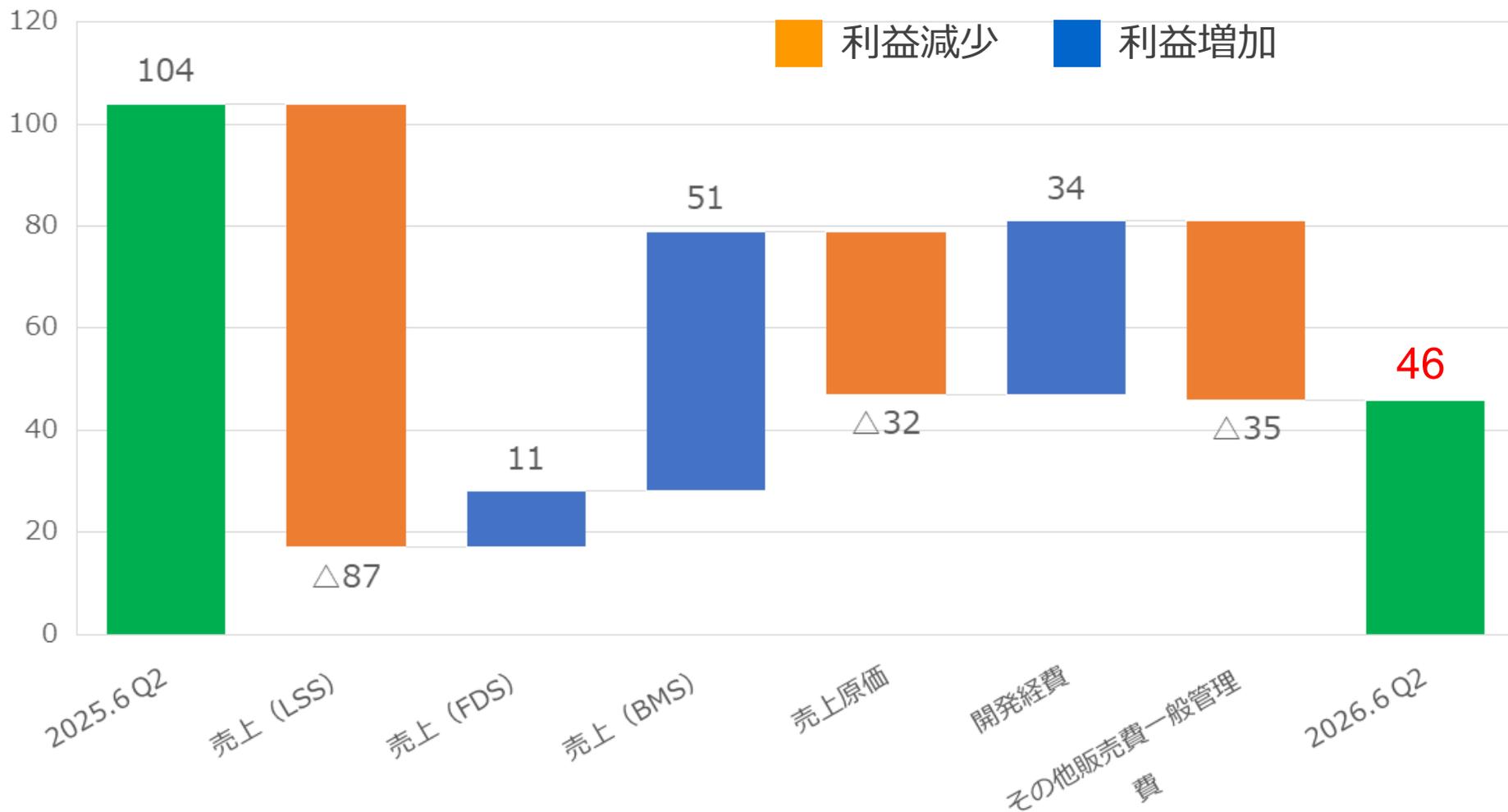


■ 大学・公的研究機関 ■ 食品企業 ■ 製薬企業 ■ 化学企業その他

■ 日本 ■ 欧米 ■ アジア

(百万円)

営業利益 増減要因



本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

当初の公表予想からの修正はございません

(単位：百万円)

	2026年6月期	(ご参考) 前期 2025年6月期	差額
	金額	金額	金額
売上高	1,600	1,455	+145
営業利益	300	249	+51
経常利益	300	240	+60
親会社株主に帰属する当期純利益	260	256	+4
一株当たり当期純利益	45円68銭	43円67銭	+2円1銭
一株当たり配当	18円	15円	+3円

目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. キャピタル・アロケーション方針に
基づく対応について

参考資料

2020.6-2023.6 経営基盤整備

- ・売上増加
- ・不採算部門の再編
(欧州・バイオメディカル 子会社)
- ・先端研究開発支援事業 生産性向上
- ・ヘルスケア・ソリューション事業
の立上げ
- ・研究開発の推進、効率的な運用

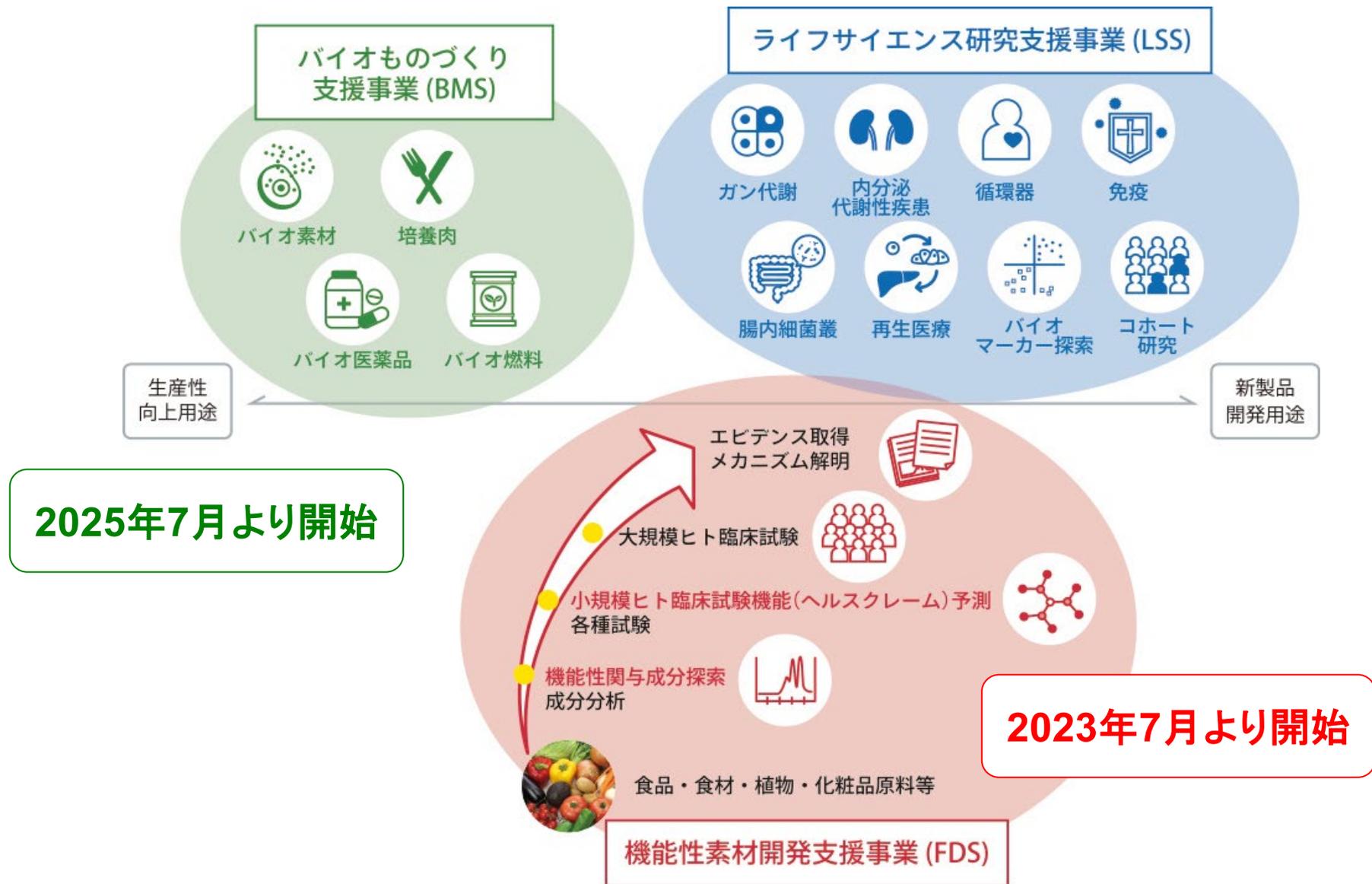
→ **安定利益確保・財務体
質強化・株主還元開始**

2024.6-2026.6 成長基盤構築

- ・機能性素材開発支援等を中核として
ヘルスケア・ソリューション事業を拡大
- ・研究開発分野を選定し投資を継続
- ・生産性向上のためのデジタル化推進
- ・顧客満足度向上に向けた新メニュー開発

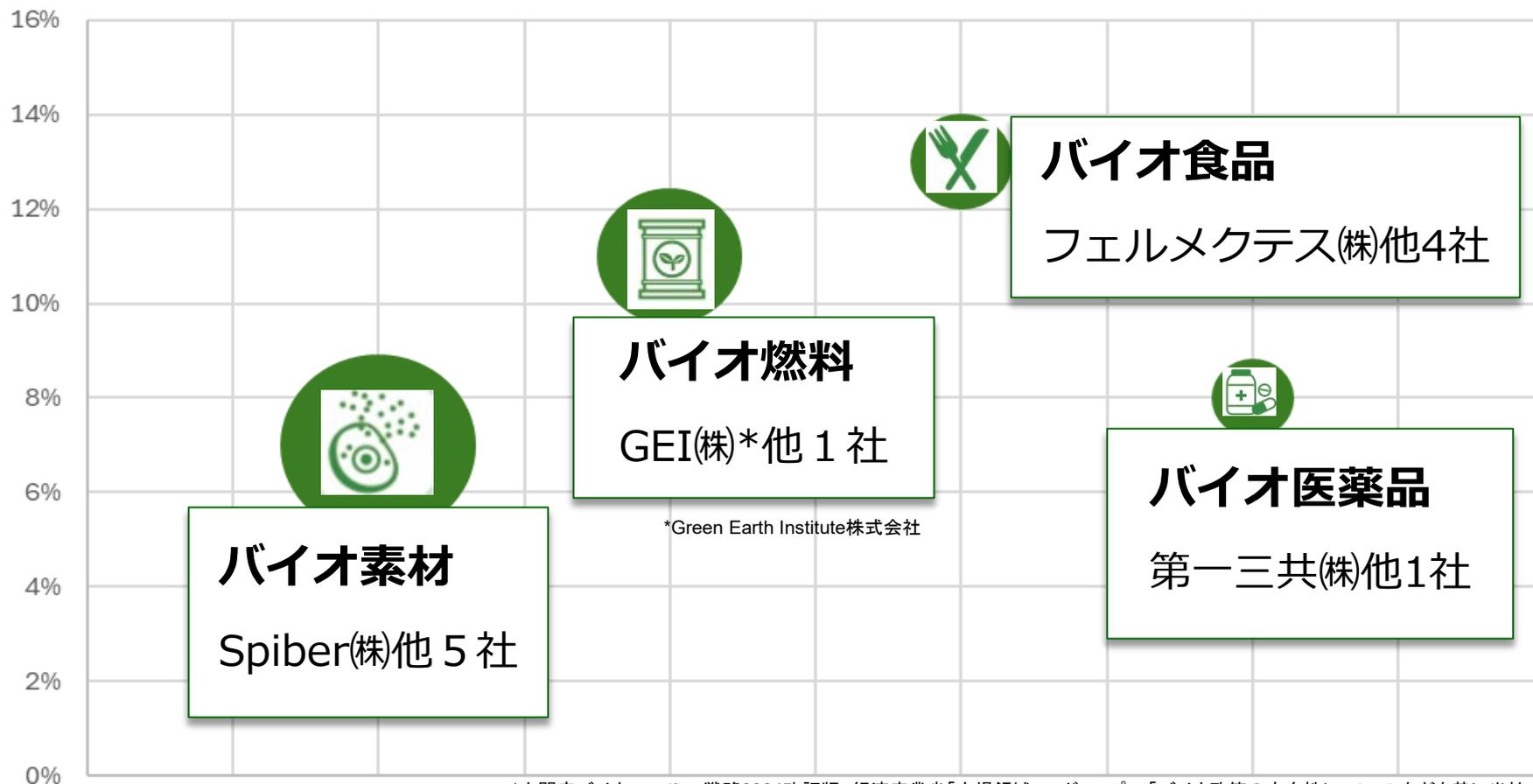
→ **新規事業による利益拡大・
飛躍的成長に向けた
新規分野での研究開発の推進**

2026.6以降
企業成長



主要全分野で受注を拡大

バイオものづくり分野別成長率(年率) ・ 規模 (兆円)

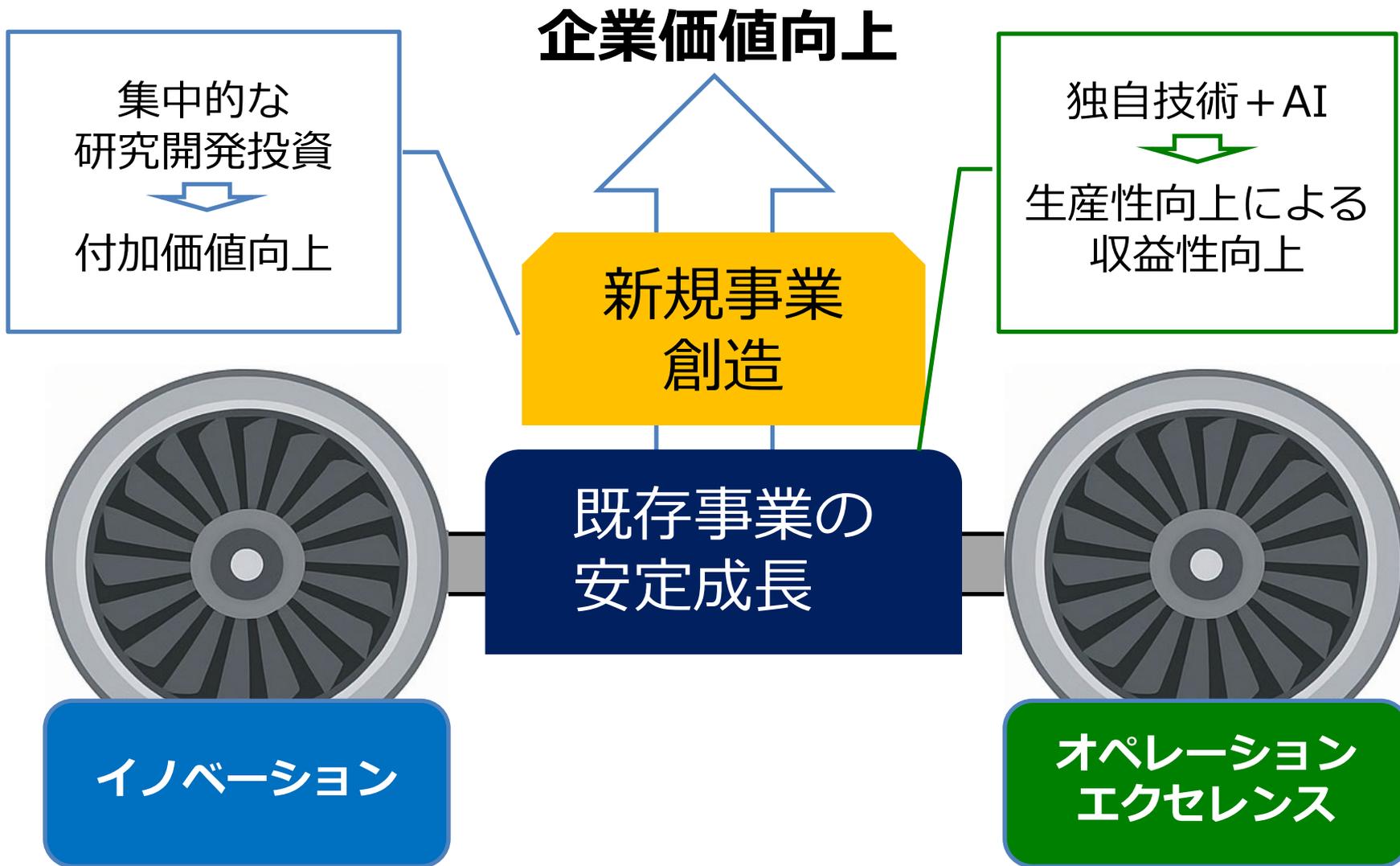


*Green Earth Institute株式会社

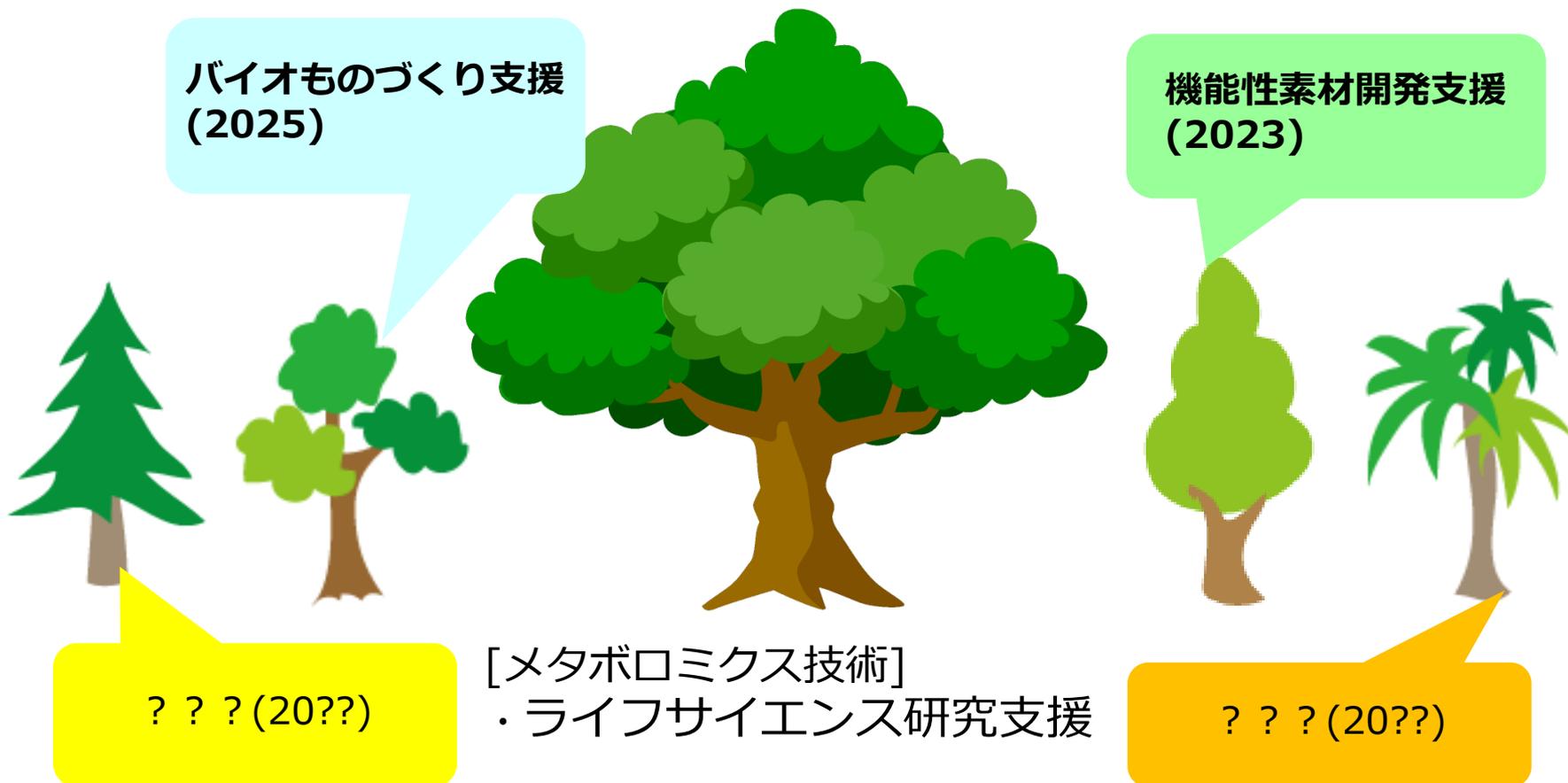
*内閣府バイオエコノミー戦略2024改訂版、経済産業省「市場領域ロードマップ」、「バイオ政策の方向性について」などを基に当社で作成

本資料の一部またはすべての複製・転載は、お断りいたします。

© Human Metabolome Technologies, Inc.



新規事業創造の継続



目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. キャピタル・アロケーション方針に
基づく対応について

参考資料

目標： ROEターゲット

中長期的に**15%以上**を目標

方針

- 1) **成長戦略**による利益増加
- 2) **キャピタル・アロケーション**による株主資本適正化

キャピタル・アロケーション方針

- ✓ 必要現預金として自己資金10億円を運転資金として確保
- ✓ 戦略投資資金（M&A・設備投資など）として5億円を確保
- ✓ これを超過して創出されたキャッシュフローは株主還元（配当・自社株式取得にて）
 - 配当は「**減配回避・増配基調**」を目指す
 - **機動的な自社株式取得**を推進
 - ◇ 保有自社株式は取締役向け株式報酬、M&Aなどに活用を予定

2026年6月期

- ✓ 配当性向を**40%**程度
 - 1株当たり**18円**（予想）
- ✓ 実施中の自社株購入結果および中間決算の状況を踏まえ、キャピタルアロケーション方針に沿った自社株式取得の検討を行う。

自己株式取得に係る事項を決議(2026年2月12日)

- 取得株式総数：250,000株
(発行済株式総数(自己株式を除く)の4.4%)
- 取得株式総額：上限 2億円
- 取得期間：2026年2月13日～2026年12月31日
- 取得理由：アセット・アロケーション方針に基づく
株主資本の適正化

参考資料



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

設立年月日：2003年7月1日

資本金：1,488百万円

取締役（社内）：大畑 恭宏（代表取締役社長）

紙 健次郎（取締役）

創業者：（2025年12月現在）

富田 勝 慶應義塾大学名誉教授

曾我 朋義 慶應義塾大学教授

主な事業内容：メタボローム解析受託サービス

売上高（直近）：1,455百万円

従業員数（連結）：62名（博士：11名）

（2025年6月現在）

本社：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246-2

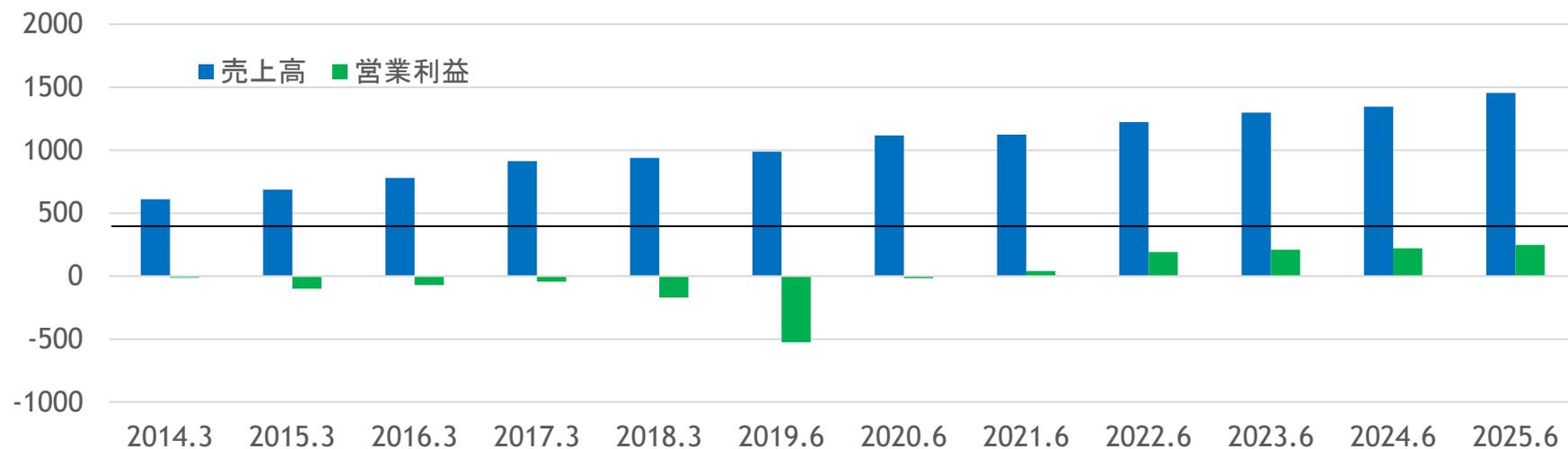
東京事務所：東京都中央区新川2-9-6

シュテルン中央ビル5階

子会社：HMTアメリカ アメリカボストン

- 2001 ● 慶応義塾大学先端生命科学研究所、山形県鶴岡市に開所
- 2003 ● 創業（創業者：慶応義塾大学 富田氏、曾我氏）
- 2012 ● Human Metabolome Technologies America Inc. 設立
- 2013 ● 上場（東証マザーズ（現グロース市場）：6090）
- 2023 ● 創業20周年
- 2025 ● 東証スタンダード市場上場（市場区分変更）

(百万円)



本資料に含まれる将来の見通し等に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後のマクロ経済動向、市場環境や当社の属するライフサイエンス業界の動向、当社の研究開発の進捗、その他内部及び外部要因により変動することがあります。

そのため、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通し等に関する記述と異なるリスクがあることを予めご了承ください。